

国際関係論専攻 2017 年度春学期
調査・研究結果報告書

B1766276

国際関係論専攻博士前期課程 1 年

平塚啓太

【フィールドワーク概要】

目的：福岡県への外国人移住者の居住実態を把握する

場所：福岡県(主に福岡市内)

日程：8月14日～8月18日(フィールドワークは実質3日間)

内容：観察調査、資料調査、インタビュー調査

【フィールドワーク詳細】

1、観察調査

実施場所：公益財団法人 福岡県国際交流センターこくさいひろば(福岡市天神)

場所概要：県民と在住外国人の交流、海外からの留学生の相談受付、文化発信を目的とした一般開放フロア

目的：こくさいひろばを利用する人々はどのような人々かどのように利用されているかを明らかにする

調査結果：相談窓口は開いていたものの、平日かつお盆休み期間であったためか確認できた利用者のごくわずかであった。その内訳としては

①韓国人女性(推定三十代)

交流スペースのテーブルでボランティアと思われる日本人男性(五十代くらい)に日本語の個別レッスンを受けていた。会話の内容から、定期的に個別レッスンをその男性から受けている様子であった。

②アフリカ系男性(推定二十代)

とある時刻が近くなると、三人ほどのアフリカ系男性が交流スペースに現れ一つのテーブルに集まり始めた。数分後に二十代のボランティアと思われる日本人女性が現れ、集団の日本語レッスンを始めていた。

③アジア系女性の集団(年齢は様々)

こうりゅうひろば奥にある部屋から、日本人女性数名とその他アジア系女性の集団が出てきた。持ち物や会話内容から、日本語の授業を終えたところであることがわかった。

④日本人男性・女性数名

彼ら、彼女らはこうりゅうひろばのイスに座っていたが、特に何をするでもなくただ携帯電話で何かをしているなど目的のある利用者ではないように見えた。数十分滞在した後に向かった先を見てみると、みな隣接するパスポートセンターに向かっており、待機時間の暇をつぶすための利用であったようだ。

2、資料調査

実施場所：①こくさいひろば ②福岡県立図書館

実施目的：福岡県における移住者受け入れの現状について全体像を把握する

調査結果：

①こくさいひろば

こくさいひろばでは一般開放フロアに資料棚が設置されており、利用者が自由に手に取ることができた。ここには留学や資格、就労支援に関するパンフレット(情報誌こくさいひろば)などのほか、国際協力や統計情報、様々なNGO、公共団体の活動などについてまとめた書類ファイルが陳列されていた。また、福岡県に関するものだけでなく、他の県のものも含まれていた。

・「情報誌こくさいひろば」

年に3回程度発行されている、福岡県国際交流センターの事業活動報告や開催イベントの告知等が掲載されているパンフレット。(日英中韓 ver を確認) 2016年から2017年にかけての5冊を入手した。主な内容は日本人学生への留学/国際キャリア相談会の案内、留学生やその他外国人居住者への法律相談会、就職支援相談会、起業セミナーや日本語教室の案内となっている。

・「福岡県と海外福岡県人会の絆」

センター発行のパンフレットで、福岡県から海外への移住者の歴史、県人会ネットワークの現状について記述している。パンフレットによると、福岡県人会は福岡県から海外へ移住した人々によって組織され、福岡県にルーツを持つ人々が異国で生活していく際に相互に親睦を深め助け合っていくことを目的に4世まで引き継がれている。現在、県の取り組みとして、移住者である県人会会員の子息たちを福岡県に招致する事業や、留学生として受け入れる事業を行っている。

②福岡県立図書館

館内の郷土資料室において県の対外交流の歴史について資料収集を試みたが、滞在時間が短かったこともありあまり収穫はなかった。しかし、地域経済情報誌「ふくおか経済」(2015年12月号)において、国内他県からではあるが福岡県への移住・企業移転についての特集を発見した。

”移住の面では、自然環境と都市が近接する「住みよさ」に対する評価が特に高い。移住経験者で組織される「福岡移住計画」を中心に、実体験を生かした移住サポートの取り組みが加速していることも、移住実績が途切れない背景の一つと言えるだろう。”(記事より引用)

3、インタビュー調査

目的：韓国から福岡県への移住者の移住動機と暮らしぶりの実態を明らかにする

調査協力者：Nari Jung さん

基本プロフィール：韓国ソウル市出身の29歳女性。勤務先である韓国観光公社の駐在員(課長)として3年間福岡支社に勤務予定で、韓国に配偶者を残し、福岡での単身赴任生活は現在1年半目。

※韓国観光公社は観光局のような役割を果たしており、世界に31カ所の支社があるとのこと。日本には東京、大阪、福岡に支社がある。ナリさんは課長として現在、韓国への日本人観光客を増やすためのプロモーション施策などに携わっている。

調査結果：インタビュー記録を参照

4、統括

当初、インタビュー調査を中心に実施する予定であったが、アポイントメントが立て続けに直前キャンセルになってしまったため十分な調査を行うことができたとは言い難い。しかしながら、県としての外国人受け入れの取り組み、韓国人移住者に関しては歴史的、環境的な面から福岡県での生活に居心地の良さを感じており、年代を問わずキリスト教会が移住先における選択肢拡大の要になっていることを明らかにすることができた。今後は教会フィールドワークや追加での文献調査を実施予定である。